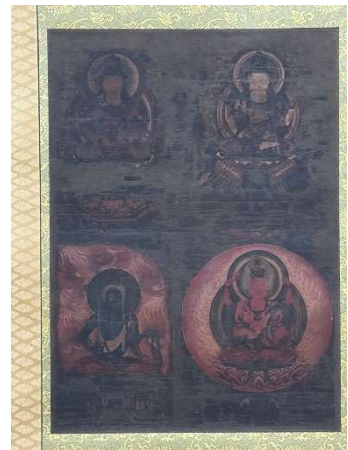


文化財の概要

長野県宝に指定する文化財

名称、所在地	所有者	文化財の概要	
旧長野県知事官舎 和館・洋館 (小川村)	小川村		本文化財は、大正 10 年（1921 年）、県庁に程近い県町（長野市南長野）に建設された。平成 15 年（2003 年）、老朽化に伴い、和館と洋館の一部が 6 期にわたり県知事を務めた西沢権一郎の出身地である小川村へ譲渡、移築され、平成 16 年（2004 年）8 月に竣工した。 和館と洋館をあわせ持つこの形式は、明治期以降の華族や高官、実業家などの邸宅において広く採用され、日本の近代化にともなう生活様式の変化を象徴するものとして、近代住宅史上重要な位置を占める。 戦前までに造られた和洋館並列型住宅の地方高官官舎のうち、現存しているものは全国で 9 棟と少ない。その点において、全国的にも貴重な存在であることを指摘できる。
		外観正面	
			
し さんぞう 四尊像（松本市）	牛伏寺	内観（和室 上座敷）	戦前までに造られた和洋館並列型住宅の地方高官官舎のうち、現存しているものは全国で 9 棟と少ない。その点において、全国的にも貴重な存在であることを指摘できる。
			
		内観（査定室）	
し さんぞう 四尊像（松本市）	牛伏寺		牛伏寺の四尊像は掛幅装の仏画で、絹本着色、大きさは 51.2×36.2 cm である。密教の諸尊を田の字型に配置し、各尊格は、向かって右上から時計回りに、孔雀明王像、愛染明王像、不動明王像、尊勝仏頂像と判断できる。 本作の制作年代については、四尊に共通する大らかな像容、引き締まった線描表現、金銀泥を巧みに配した洗練された装飾感覚から、13 世紀初頭と推定でき、制作優秀な仏画である。 なお、本作は、明治 20～30 年（1887～1897 年）頃に、京都の大覚寺から下賜され、牛伏寺に伝えられたものである。
		四尊像	